



「未来塾」グループ代表
石川賢治

「未来塾」の美化活動へ

「未来塾」は、拾石町のボランティアグループで、平成8年から「拾石町内のこと」を考えて活動しています。会員は現在11名で、主に拾石川の美化活動に取り組んでいます。

今の私たちの暮らしは、人工の建物などに囲まれた市街地で生活しているため、自然に親しむ場所、心安らぐ場所がありません。これは、自然界の生き物にとっても同様で、生き物が生息する場所も限られてきてしまっています。

しかし、二級河川「拾石川」にはまだ少し自然が残っています。そこで私たちは、将来この川を自分の子どもたちにより良

い形で残せるように、そして子どもたちがいつまでも水とふれあい、親しみのもてる憩いの川となるように、日々、環境美化に取り組んでいます。

会の主な行事は、年3回のお祭り前に川の清掃、草刈りをすることですが、中には、毎日草刈りやごみ拾いをしている会員もいます。

これまで、河川管理者である愛知県にお願いして、小さい魚道や水辺に降りる階段を造っていただきました。そのおかげもあり、桜の時期などには大勢の市民でにぎわっています。今後は、もつと拡張して散策路などを造ることも考えています。

11年間活動していますが、まだまだごみは減っていません。今後でもできる限り活動を続けていき、「拾石に住んでいて良かったナ」と思えるような「まち」

「拾石に住んでいて良かったナ」と思えるような「まち」になればと思っています。



学芸員 小龍龍二

竹島水族館 ☎68・2059

今年の夏はとにかく暑かったですね。水族館の仕事という水のはらで涼しそうと思われながらもかもしれませんが、それはクーラーの効いた水族館の中と事務所だけ。普段、私たちが作業している「裏側」は、気温、湿度とも高く、夏はとにかく暑い。それじゃ、冬は快適かというと、これが大変冷たく寒い場所なのです。

そのため、いったん館内へ入ると、裏側へ戻りたくなくなり、いつまでもお客さんと話し込んでしまいます。

一方、自分が感じる暑さよりも、生き物の感じる暑さに毎日ハラハラしていた人もいます。その人は、アシカトレー

魚も暑かったこの夏

ナーで、アシカが、いつ「暑いから、もうやめた！」とシヨをホイコットしてしまいか、とても心配していました。そんな心配を察してか、アシカたちは、この夏、とても頑張ってくれました。

さらに、今年は暑すぎて、水温の上昇に冷却器の能力が追いつかなくなり、設定水温を大幅に上回ってしまうという事件がたびたび起きました。設定水温以上になると、制御装置が働き、ビー、ビーという嫌な音が鳴るため、飼育員は戦々恐々の思いでこの夏を過ごしました。

また、魚たちも皆さんの前では、涼しそうに泳いでいますが、私たちと違い魚たちは、周り（水界）の温度に自分の体温が左右される変温動物なので、飼育員以上に水温の上昇にやきもきます。それは、暑い地方にいる熱帯魚でも同様。いくら熱帯地方の魚と言えども、限度を超えた熱すぎる水温ではまいてしまうのです。